

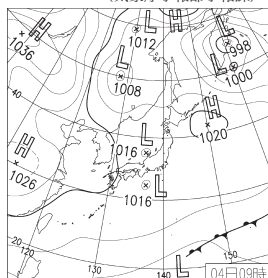
日々の天気図

— No. 143

2013年12月

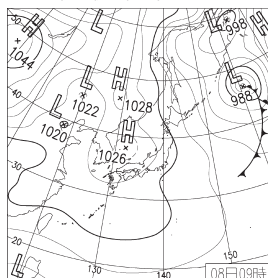
- ・10日、日本海と本州南岸の2つの低気圧の影響で大気の状態が不安定、高知県で竜巻被害。
- ・14日、東北の日本海側で大雪、秋田県横手で統計開始の1979年以降最大となる日降雪量51 cm。
- ・27日～28日、強い冬型の気圧配置となり、近畿など西日本でも大雪。

(気象庁予報部予報課)



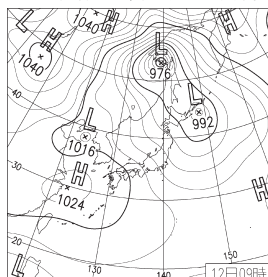
4日(水) 気圧の谷通過

寒気を伴った気圧の谷が通過。北海道の日本海側を除き全国的に日照も出たが、雨の降った所もあり、沖縄県新石垣空港では31 mm/1hの激しい雨。彦根で初霜。



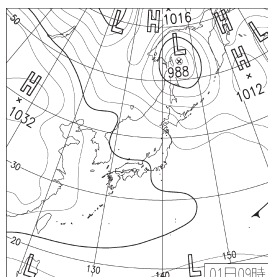
8日(日) 酸ヶ湯で積雪1m超

移動性高気圧に覆われた西～東日本は晴れ、北日本は日本海側中心に雪。青森県酸ヶ湯の最深積雪101 cmは今季全国初の1 m 超え。放射冷却により九州各地で最低気温が氷点下。



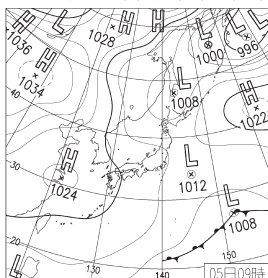
12日(木) 一時的に冬型強まる

日本付近は一時的に冬型の気圧配置が強まり、日本海側で雪、太平洋側で晴れ。松山・高松・徳島で初氷、高松・岡山で初雪。広島県極楽寺山で初冠雪。



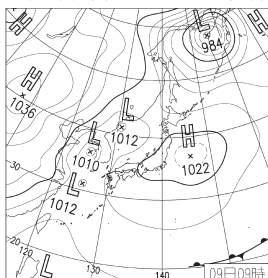
1日(日) 北日本は雨や雪

北日本中心に冬型の気圧配置となり、北陸や東北・北海道の日本海側で雨や雪。九州や西日本の日本海側では寒気を伴った上空の気圧の谷の通過により所々で雨、東海や関東は晴れ。



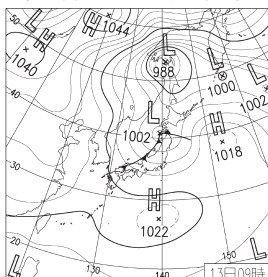
5日(木) 沖縄～東日本で晴れ

東～北日本の日本海側で曇りや雨。沖縄～東日本太平洋側では、概ね晴れ。北海道では最高気温、最低気温ともに平年より5℃以上高い。福岡で初霜、京都市でイロハカエド紅葉。



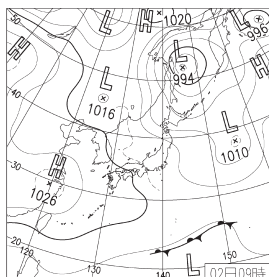
9日(月) 西から天気下り坂

低気圧の接近で西から雨が降り始め、沖縄県竹富町波照間で41 mm/1hの激しい雨。高気圧に覆われて朝は冷え込み、彦根・福井・金沢で初氷、山陰～北陸などの6地点で初霜。



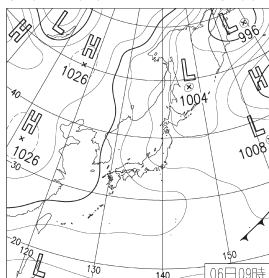
13日(金) 山陰～北陸で雨

寒冷前線に暖気が吹き込んで一旦寒気が緩み山陰～北陸は日中雨。北日本の日本海側は断続的に雪。大阪・津・新潟で初氷、岐阜・前橋で初雪。北海道えりも岬で最大風速30.4 m/s。



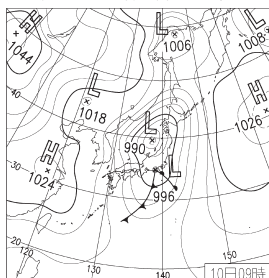
2日(月) 北日本、冬型続く

北陸以北の日本海側は雨や雪で北陸では雷も。その他は晴れた所が多いが上空の気圧の谷の通過により九州南部では一時的に雨や雷雨。高知市・下関市・鳥取市でイロハカエド紅葉。



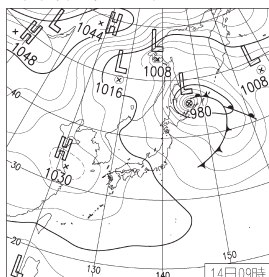
6日(金) 弱い冬型の気圧配置

気圧の谷や寒気の影響で山陰～北陸、北日本で雨や雪、北陸中心に雷や突風も。沖縄・奄美～西・東日本の太平洋側は概ね晴れ。先島諸島では気圧の谷の影響で曇りや雨。



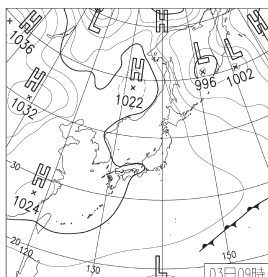
10日(火) 太平洋側で大気不安定

日本海と本州南岸の低気圧により、西～東日本の太平洋側で大気の状態が不安定となり、強風や激しい雨。栃木県那須大島で最大瞬間風速33.2 m/s。高知県で竜巻。



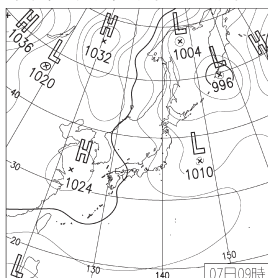
14日(土) 冬型気圧配置強まる

低気圧が発達し、北陸・北日本で暴風雪や大雪。最大瞬間風速は北海道羅臼で31.7 m/s。北陸や東北日本海側は積雪が平年の3倍前後に。京都・彦根で初雪。千葉県で震度4。



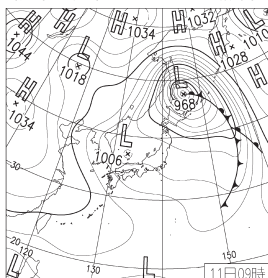
3日(火) 冬型の気圧配置解消

雨となった北陸を除き日中は高気圧に覆われて晴れ。夜は日本海で発生した低気圧に寒気を伴った気圧の谷の影響が加わり日本海側で広く雨。千葉県・茨城県で震度4の地震。



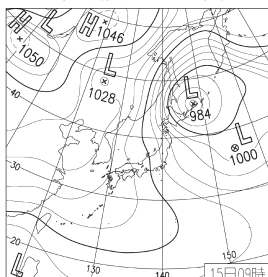
7日(土) 移動性高気圧が東進

西日本は高気圧に覆われたが、東・北日本は冬型気圧配置が持続。日本海で筋状雲が広がり、沿岸を中心に雨や雪。西・東日本の太平洋側では晴れ。大分市でイロハカエド紅葉。



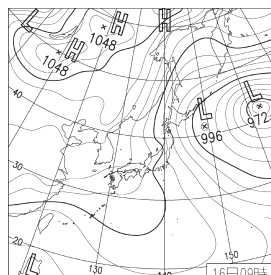
11日(水) 山陰～東北で雷

日本海に寒気が入り、西日本の日本海側や北陸～北日本で雷を伴った雨や雪。沖縄・奄美は寒気の影響で曇り、東海、関東は概ね晴れ。北海道えりも岬で最大瞬間風速33.8 m/s。



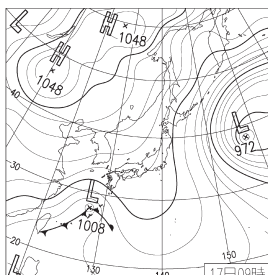
15日(日) 冬型の気圧配置続く

オホーツク海に発達した低気圧があり、冬型気圧配置持続。日本海側は雪や雨となり、北日本を中心に大雪。湿った東寄りの風の影響で、沖縄・奄美は曇りや雨。東京で初霜。



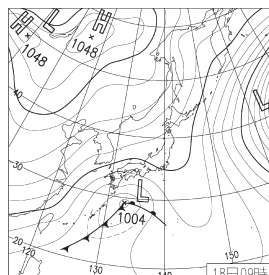
16日(月)西日本、冬型緩む

東シナ海で気圧の谷が深まり、沖縄・奄美では雨、西日本は晴れから次第に曇り。東～北日本は冬型が続き、日本海側を中心に雪や雨。福島県白河で最大瞬間風速30.3 m/s。



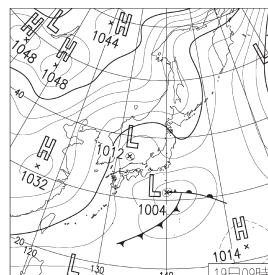
17日(火)低気圧ゆっくり東進

沖縄・奄美は雨や雷雨、西日本も曇りで九州・四国は雨。鹿児島県屋久島町小瀬田で日降水量148 mm。北陸と北日本日本海側は冬型気圧配置が緩み、雨・雪が弱まり晴れ間も。



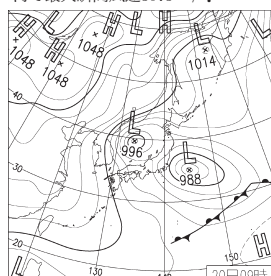
18日(水)甲府・宇都宮で初雪

南岸低気圧が東進した影響で西～東日本は広範囲で雨や雪となり、太平洋側を中心に日中の気温は上がらず、寒い一日に。沖縄県南大東空港で34.5 mm/1 hの激しい雨。



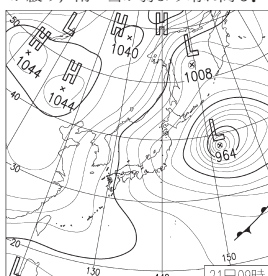
19日(木)全国的に雨や雪

日本海に低気圧が発生し全国の広い範囲で雨や雪。九州や関東では、最高気温が平年より5℃前後低め、北海道のオホーツク海側や太平洋側では最低気温が高く11月上～中旬並。



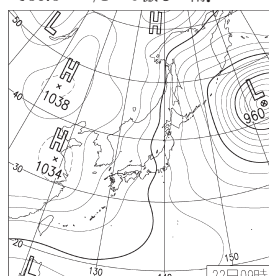
20日(金)鳥取・東京でひょう

上空に寒気を伴った日本海の低気圧が北陸へ進んだ影響で、西・東日本は広い範囲で大気の状態が不安定、西日本の日本海側を中心に暴風雪。愛媛県宇和島で最大瞬間風速31 m/s。



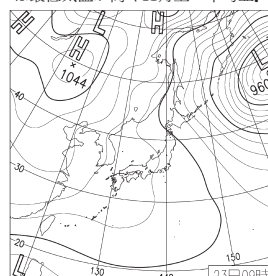
21日(土)長崎で初雪

強い冬型の気圧配置となり、西日本や北陸・北日本で雪や雨。沖縄・奄美も寒気の影響で曇りや雨。東海～関東は晴れ。横浜・新潟で初霜。関東地方で震度4の地震が2回発生。



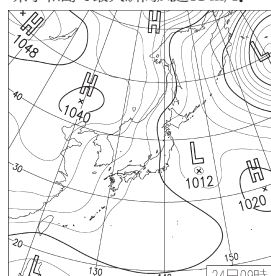
22日(日)冬型、次第に緩む

発達した低気圧は日本のはるか東に去り、冬型の気圧配置は次第に緩む。日本海側の雨や雪も弱まり、東北日本海側では晴れ間の広がった所も。鹿児島で初氷と初霜、松山で初霜。



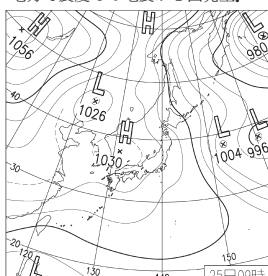
23日(月)九州北部などで初氷

太平洋側は晴れ、西日本の日本海側は気圧の谷の影響で雨や雪。冬地点は、沖縄を除く46都道府県に分布。長野県南牧村野辺山で最低気温-20.7℃。佐賀・大分・福岡などで初氷。



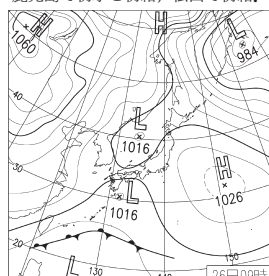
24日(火)冬型続く

冬型の気圧配置が続き、太平洋側は晴れ、日本海側は雨や雪。沖縄・奄美と山陰～北陸では気温が上がらず日中の最高気温は平年より3～5℃低め。那覇市でツバキ開花。



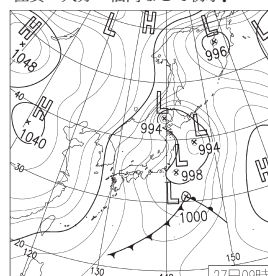
25日(水)冬型の気圧配置緩む

日本海の高気圧に覆われた西～東日本は概ね晴れ。北日本は日本海側で曇りや雪。沖縄・奄美は曇りや雨となり、夜には沖縄の南に前線発生。宮古島市でツバキ開花。



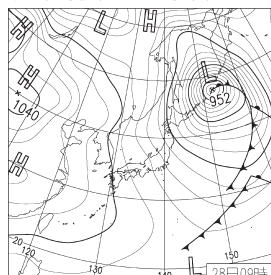
26日(木)気圧の谷通過

気圧の谷が通過し、沖縄・奄美、西日本は雨。西日本は雨で気温が上がらず、岡山の最高気温は5.7℃で平年比-4.8℃。北日本の日本海側は寒気の影響で雪や雨、太平洋側は晴れ。



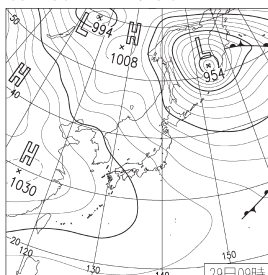
27日(金)北日本中心に大荒れ

日本付近は次第に強い冬型の気圧配置へ。北日本を中心に風が強く秋田県八森で最大風速21.3 m/s、史上1位。西日本日本海側で大雪、兵庫県香美町兎和野高原で日降雪量58 cm。



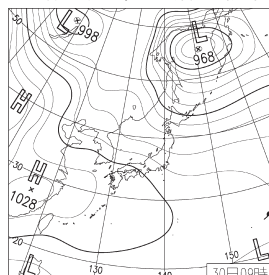
28日(土)名古屋で初雪

強い冬型持続。沿岸部を中心に全国的に風が強く、山陰～北海道の日本海側は雪。雪雲が流入した西日本～東海や東北の太平洋側の平野部でも雪。福島県金山で日降雪量60 cm。



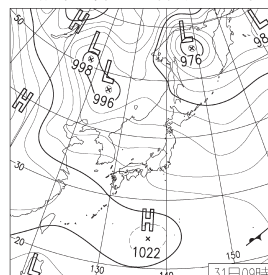
29日(日)東京で初氷

冬型の気圧配置で上空に強い寒気。気象衛星画像で日本付近は筋状の雪雲に囲まれる。東京は最低気温0.5℃、初氷を観測。鹿児島で初雪。国内の約8割に当たる751地点で冬日。



30日(月)大阪などで初霜

高気圧が日本の南に張り出したが、寒気の流入は続き、東～北日本の日本海側で雪や雨。気温は沖縄～東日本で低く、北日本で高め。徳島・和歌山・大阪で初霜。和歌山で初氷。



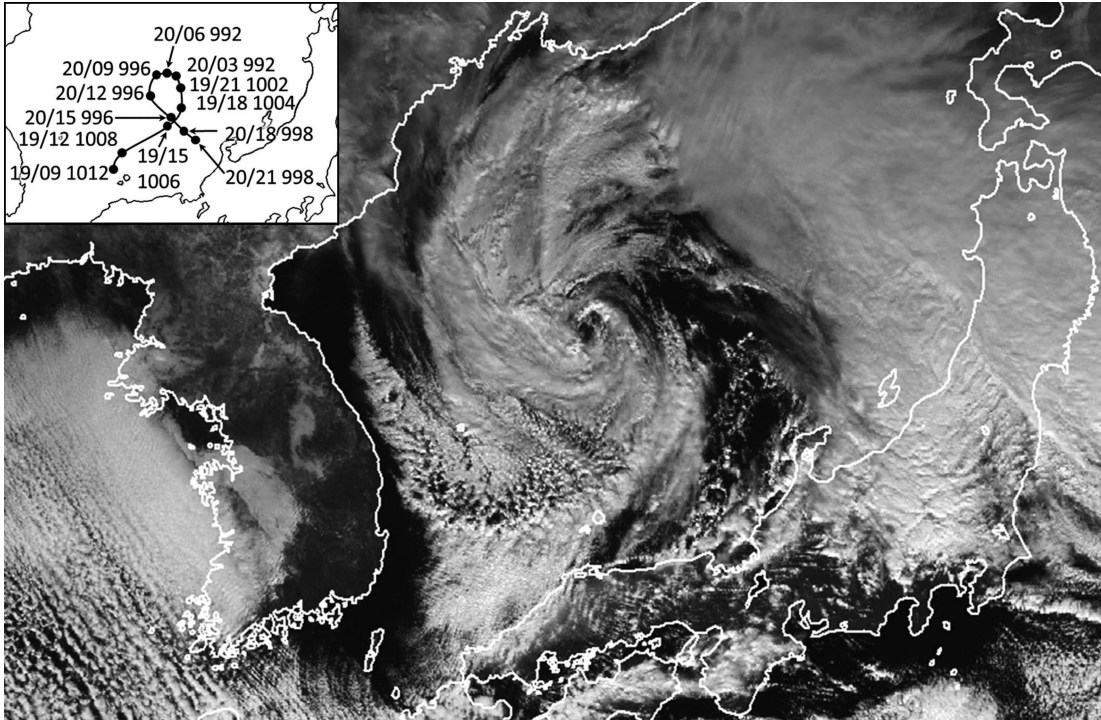
31日(火)茨城県で震度5弱

日本の南海上に高気圧が進み、冬型気圧配置は解消。寒気が残っており、北陸や北日本は雨や雪。西日本の一部や東海・関東では晴れ。気圧の谷の影響で沖縄・奄美は曇りや雨。



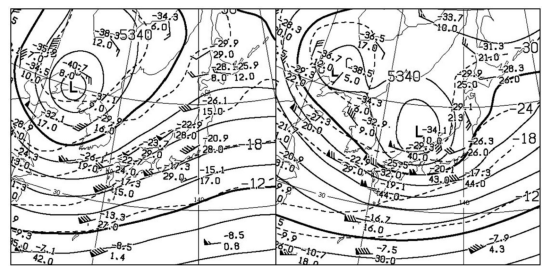
今月のひまわり画像—2013年12月

日本海で反時計回りのループを描いたポーラーロウ



第1図 2013年12月20日12時（日本時間）の日本海付近の可視画像。左上図は19日09時～20日21時の低気圧の経路図（●印は低気圧の中心位置、数値は左から日、時、中心気圧（hPa））。

2013年12月19日から20日にかけて、日本海で低気圧が反時計回りに進みながら急速に発達した。第1図は20日12時の日本海付近の可視画像である。同図左上にこの低気圧の3時間毎の位置と中心気圧を示した。低気圧は19日15時にかけて、中上層のトラフ前面（第2図左）で北東に進みながら発達した。それ以降、次第に中上層の寒冷渦（第2図右）の影響を受け、速度を落としながら反時計回りに進み、急速に発達した。19日21時頃から赤外画像でも循環中心がわかるようになり、次第にポーラーロウ（寒帯気団低気圧）の様相を呈した。低気圧の中心気圧が最も深まったのは20日06時であった。第1図の可視画像では、低気圧の中心には明瞭な渦を確認でき、その周辺には発達した積乱雲が取り巻いている。低気圧は20日午後になると南東進し、21日00時頃に能登半島を通過した後、消滅した。



第2図 日本付近における500 hPa 高層天気図（左：19日09時、右：20日09時）。

この低気圧の接近に伴い、北陸や中国地方の日本海側には暴風雪・波浪警報が発表された。ポーラーロウは局地的に大雪や突風などの被害をもたらすことがあるため、警戒が必要である。

（気象庁予報部予報課 原 基）